



神戸女子大学管弦楽団 第10回定期演奏会

2013年2月23日(土)

開場 17:30 開演 18:00

神戸芸術センター 芸術劇場

神戸市営地下鉄／「新神戸駅」徒歩約4分、バス「布引」下車すぐ
阪急・阪神／「三宮駅」徒歩約15分、JR／「三ノ宮駅」徒歩約15分

入場無料

R.シューマン/交響曲第1番 作品38「春」

J.ブラームス/大学祝典序曲 作品80

C.ストロマン/Salute to the Cinema

客演指揮 川嶋雄介

学生指揮 平井圭織 佐藤昌子



神戸女子大学管弦楽団 第10回定期演奏会

2013. 2. 23 Sat

開場 17:30 開演 18:00

神戸芸術センター芸術劇場

入場無料(チケットはありません)



- 神戸市営地下鉄／「新神戸駅」徒歩約4分、バス「布引」下車すぐ
- 阪急・阪神／「三宮駅」徒歩約15分、
- JR／「三ノ宮駅」徒歩約15分

【演奏曲紹介】

■ R.シューマン／交響曲第1番 変ロ長調 作品38 「春」

シューマンは、1810年6月8日にドイツ・ザクセン王国のツヴィッカウで生まれた。幼い頃父親の仕事柄、音楽や文学・作曲に触られる環境で育ち豊かな才能を示した。彼は、ドイツ・ロマン主義の理念を、音楽家として最も純粋な形で表現している作曲家であり、明晰な頭脳と文学的才能を持ち、鋭い感性に恵まれていた人物であった。

1839年までは多数のピアノ曲を作曲してきたが、翌年から変化が起こる。1840年に大きな苦難の末、女流ピアニストのクララ・ヴィークと結婚したのである。ようやくクララとの結婚生活をスタートさせた彼は、まさに人生の春真っ盛りであった。結婚後は、創作意欲が旺盛になり、ピアノ曲だけでなく百数十曲の歌曲を生み出した。そして翌年1841年に、シューマンにとって幸福と創作の絶頂にある中で、念願の交響楽〈交響曲第1番〉が作曲された。わずか4日間で書き上げられたこの作品は、友人の一人であったアドルフ・ベドガーの詩「汝、雲の霊よ」の最後の一文「谷間には春が咲いている！」に靈感を得て作曲されたとも言われている。〈交響曲第1番〉は、詩的なものと音楽的なものを一体と考えたいわば詩の続編ともいう形で、彼は「春の交響曲」の中に春の訪れや喜びのロマンを表現したのである。

同年3月31日、クララ主催によるオーケストラの養老基金のための演奏会にて、メンデルスゾーン指揮のライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団により初演され、大成功をおさめた。

■ J.ブラームス／大学祝典序曲 作品80

ブラームスは管弦楽のための作品を意外なほどわずかしか作らなかった。その中で最もポピュラーになっているのが、この〈大学祝典序曲〉である。ブラームスが以前、学生たちと交わった頃に覚えたドイツの学生歌を取り入れたこの曲は、1879年3月にドイツのブレスラウ大学から「名誉博士」の称号が授与されたとき、その返礼として翌年の夏、ザルツブルグに近い避暑地バード・イシュルにおいて作曲された。

この作品には次の4つの学生歌が使われている。「われらは立派な校舎を建てた」「祖国の父」「新入生の歌」「だから愉快地やろうじゃないか！」。この「厳粛」「感傷」「ユーモア」「歓喜」の4つの性格をもつ歌を巧みに綴り合わせて、打楽器を多く加えることによって華やかな色彩にあふれた管弦楽の響きを十分に発揮させている。

■ C.ストロマン／Salute to the Cinema

1930年代から1950年代の名作映画5作品それぞれの代表作を、メドレー形式にしたものである。映画「ハリウッドホテル」からは、日本テレビ系列で現在も放送中「世界まる見え!テレビ特捜部」のOPにもなっている『HOORAY TO HOLLYWOOD』。ミュージカル映画「雨に唄えば」から、雨の中で愉快地に踊る場面の『Singin' in the rain』。「オズの魔法使い」から、ドロシーがしっかりと歌う『Over the rainbow』。「カサブランカ」から、時は変わっても愛の大切さは変わらないことを歌ったバラードの『As Time Goes By』。「黒いオルフェ」からは、ボサノバのリズムが格好いい『A Day in The Life of a Fool』の5曲をお送りする。軽快なメロディーから哀愁漂う悲しげな旋律、メドレーならではの様々な曲たちが、今宵あなたを名作映画の世界へ!!!

客演指揮：川嶋 雄介 学生指揮：平井圭織・佐藤昌子



神戸女子大学管弦楽団は2000年、5名の有志によって『オーケストラ同好会』として発足しました。2001年から積極的に学校行事に参加、2003年には同好会から部に昇格し「神戸女子大学管弦楽団」に改名するとともに、同年11月、発足から4年目にしてついに第1回記念定期演奏会を開催することができました。予算不足や団員不足に悩まされながらも毎年定期演奏会を開催し、今回で記念すべき10回目の定期演奏会を迎えることができました。

現在、団員約30名で活動中の神女オケの自慢は何と言ってもアットホームな部の雰囲気です。団員全員が演奏、部の運営に主体となって関わり、年に一度の演奏会を作り上げています。まだまだ歴史は浅いですが、これからも未熟ながら神女サウンドを追求し続け、更なる発展に向けて団員全員で頑張っています。

<http://www.smile-navi-web.com/blog/shinjo/club4715/>